



株主のみなさまへ

第92期 株主通信

平成29年4月1日～平成30年3月31日

Contents

新中期経営計画	1
トップインタビュー	2
連結財務ハイライト	3
連結財務データ	5
グローバル 海外拠点紹介／トピックス	7
ダイバーシティ	8
会社情報	9
株式情報／CSR	10
Takasago's History	裏表紙

企業理念

技術立脚の精神に則り
社会に貢献する

経営基本方針

地球環境に配慮し、
地域社会を大切にした
世界の人々から共感を得られる
企業を目指す

信頼される商品を
供給し続けることにより、
グローバル市場での
トップクラスの香料会社を目指す

表紙について

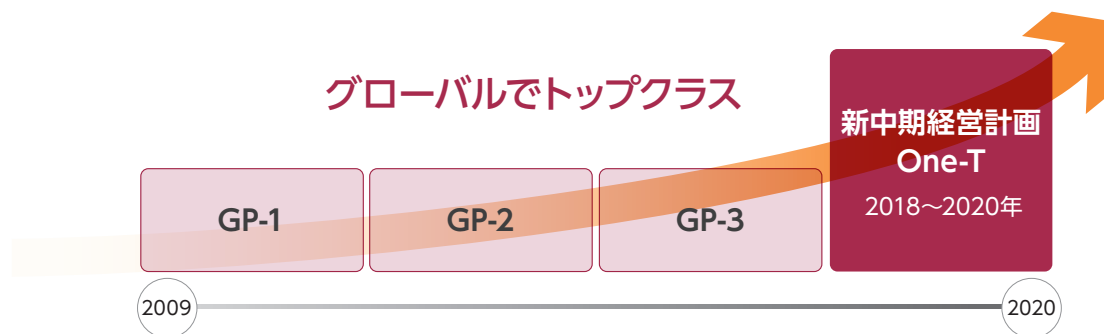


当社のフレグランス事業では、グローバルで「ホームケア・パーソナルケア」および「ファインフレグランス(香水)」の2つの領域で事業展開をしています。新中期経営計画期間中、「ホームケア・パーソナルケア」の領域においては、以前より主力である「エアケア(芳香剤)」、市場の大きな「ファブリックケア(衣料用洗剤や柔軟剤など)」、そして成長が期待できる「パーソナルウォッシュ(ボディーソープなど)」に注力していきます。

新中期経営計画

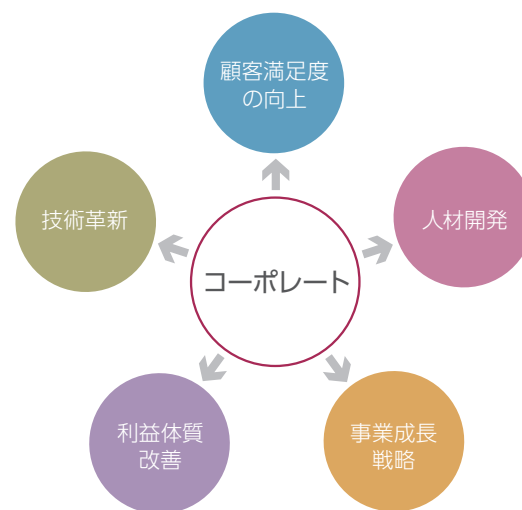
| MID-TERM GROWTH STRATEGY |

Vision 2020



新中期経営計画One-T

高砂香料グループ一丸となって、創造的かつ革新的な価値を生み出していく必要があります。これを表すスローガンとして、「One-Takasago」から「One-T」としました。



- **顧客満足度の向上**: 営業力、研究・開発力の強化、徹底した品質管理や迅速、柔軟な対応を通して顧客満足度向上を目指す。
- **事業成長戦略**: マーケットプレゼンスを高め、安定的な収益を確保しつつ事業基盤の拡充を図り、売上1,700億円を目指す。
- **技術革新**: 技術立脚の企業理念を念頭に、独自性・優位性のある技術や製品を開発し、その成果をグローバルで応用展開する。
- **利益体質改善**: グローバルでの業務改革やバリューチェーンの最適化を進め、営業利益率5.2%を目指す。
- **人材開発**: 「挑戦する人材」を育成し、グループの人的資源を最大限活用し、グローバルに活躍できる環境を整備する。

基本方針の中心に「コーポレート」という概念を据え、グローバル企業として必要な基準や仕組みを全社的に統一、整備していきます。

技術立脚の精神に則り、“香り”を通じて、 世界の人々の心と体の健康に貢献します。

2018年4月、高砂香料グループは、新中期経営計画「One-T」をスタートさせました。新たな方針のもと、革新的な技術によって成長してきたグローバル企業として、“香り”を通じて豊かな社会づくりに貢献するとともに、グループ一体となり世界トップクラスの香料会社を目指してまいります。

Q. 創業100周年を迎えることができる企業は、
数少ないといわれていますが、高砂香料は
2020年に100周年を迎えようとしています。
その要因をお聞かせください。

A. 当社は、1920年(大正9年)、技術者が集まって創業した会社です。「技術立脚の精神に則り社会に貢献する」という企業理念を脈々と受け継ぎ、フレーバー(食品香料)、フレグランス(香粧品香料)、アロマイングリディエント(香料原料)、ファインケミカル(医薬品中間体など)の製品開発とともに、効率的な生産を可能にする

新たな生産プロセスの開発に注力することで成長を遂げてきました。

また、早い時期に海外進出を果たしたことも、グローバルに事業を展開する当社の強みになっています。香料産業は欧米を中心に発展してきましたので、当社の技術や事業の成長のためには、海外への進出が必須でした。このため、1960年代には海外展開を開始しています。現在、当社グループは27の国と地域で事業を展開しており、従業員の半数以上は外国人が占めています。



代表取締役社長 **榎村 聡**



Q. 前中期経営計画「GP-3」の振り返りをお願いします。

A. 2013年に起こした平塚工場の火災事故を受け、安全対策を第一としました。またお客様に供給責任を果たせなかった反省から、「顧客からの信頼」を基本方針の1つとしました。

その他に4つの基本方針を掲げており、「利益体質改善」については、物流や工場の生産効率の見直しを図ったほか、原料のグローバル購買を推進しました。グローバル購買の実現により、コストダウンだけでなく、世界のどこの拠点で製造しても同じ品質が得られる段階に近づいており、災害発生時のバックアップ強化などにもつながっています。

「人材開発」に関しては、幅広い分野の人材がプロジェクトに応じて、グローバルに活動できる仕組みづくりを

進めてきました。

また「技術革新」については、ファインケミカル事業において医薬品中間体の新たな柱となる製法を確立し、静岡県磐田工場に新装置を導入しました。

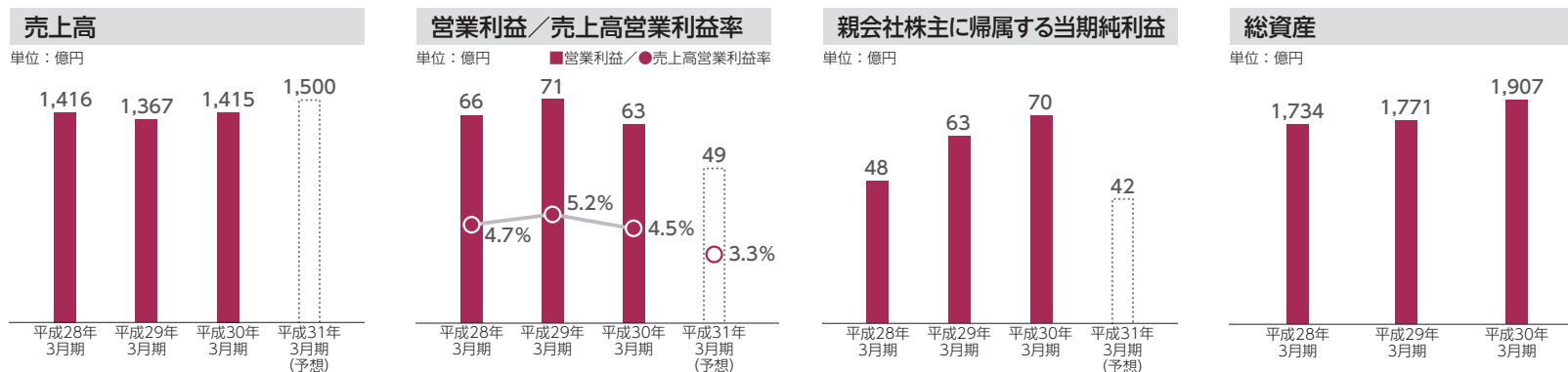
結果として、2018年3月期は、売上は、為替相場の影響やアジア市場が予想ほどは拡大しなかったことなどがあり、1,600億円の計画に対して1,415億円と乖離しました。営業利益についても最終年度では未達となりましたが、「GP-3」の3年間に於いて利益体質は大きく改善し、利益水準が向上しました。

Q. 今年4月にスタートした新中期経営計画「One-T」についてお聞かせください。

A. 当社は、「2020年にグローバルでトップクラスの香料会社を目指す」というビジョンのもと、2009年にス

連結財務ハイライト

| CONSOLIDATED FINANCIAL HIGHLIGHTS |



スタートした「TAKASAGO GLOBAL PLAN」を推進しており、「One-T」は3カ年計画の最終段階となります。基本方針として、「顧客満足度の向上」「事業成長戦略」「技術革新」「利益体質改善」「人材開発」の5つを推進していきます。

また、海外における売上や従業員比率が半分を超えている現在、基本方針を推進していく上で、「コーポレート」という考え方は不可欠です。今まで独立性を重視してきた海外拠点との連携を強化し、基準の統一、仕組みづくりをし、統一性のある経営を進めていきます。そのため「One-Takasago」から「One-T」というスローガンにしました。

グローバル市場でのトップクラスの裏付けとなるものは、企業規模ではなく、技術立脚の精神に則って独創的かつ斬新な製品をつくり続けることだと考えています。従来から当社グループは、大学や他社と共同で、

様々な技術を融合させることで新たな価値を創造してきましたが、今後はこういったオープンイノベーションの取り組みをさらに加速していきます。また、これまではフレーバーやフレグランスといった製品や市場の特性にあわせて、それぞれの地域に根ざした事業展開を進めてきましたが、今後はグローバル企業としてのさらなる成長に向けて、グループ共通の人事評価制度を整備するなど人材の交流と活躍を推進していきます。

2018年度は、原料高騰の影響を受けることが予想されるものの、「One-T」最終年度の2020年度には売上1,700億円、営業利益率5.2%を計画しています。

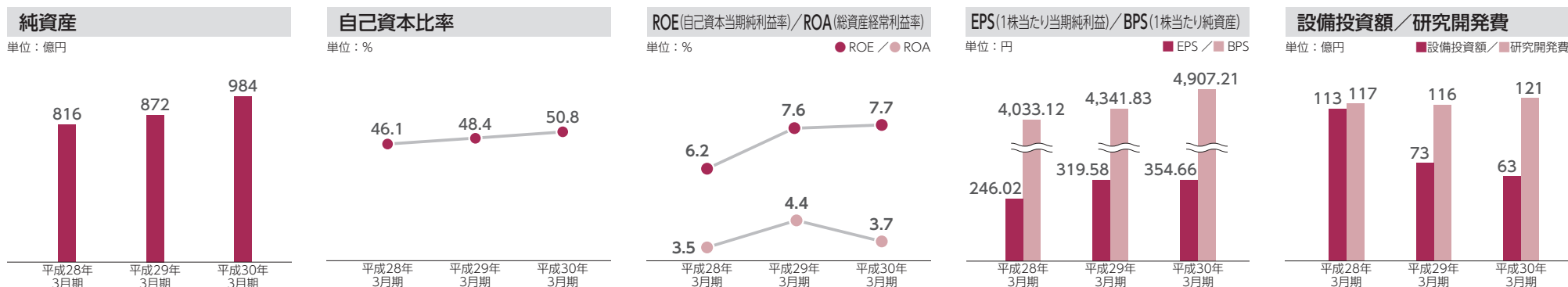
Q. 株主の皆様へ一言お願いします。

A. 当社グループは、「地球環境に配慮し、地域社会を大切にしたい、世界の人々から共感を得られる企業を目

指す」ことを経営の基本方針として、ガバナンスの強化や働きやすい職場づくり、社会貢献活動などに取り組み、持続的な成長を図るとともに、ステークホルダーの皆様信頼していただける企業となるべく取り組みを進めてきました。特に近年は、リニューアブルな原料の利用を拡大することで、サステナブルな社会への貢献を意識した取り組みを強化しています。

私たちがお届けしている“香り”は、人々の心と体の健康に深く関わっています。高砂香料グループは、これからも世界の人々の生活を豊かにするという重要な役割を果たしていきます。

株主の皆様には、当社グループが積み上げてきた歴史、アイデンティティをよくご理解いただき、末長くサポートいただきたいと思います。



経営成績

単位：億円

科 目	平成26年3月期 (第88期)	平成27年3月期 (第89期)	平成28年3月期 (第90期)	平成29年3月期 (第91期)	平成30年3月期 (第92期)
売 上 高	1,310	1,316	1,416	1,367	1,415
売 上 原 価	914	910	963	925	967
売 上 総 利 益	395	406	452	442	448
販売費及び一般管理費	341	374	386	370	384
営 業 利 益	54	31	66	71	63
経 常 利 益	59	38	60	77	67
親会社株主に帰属する当期純利益	30	25	48	63	70

Point 売 上 高 ドイツ子会社におけるフレーバー事業の好調等により、増収となりました。

Point 営業利益 シンガポール子会社、中国子会社の不調に加え、米国子会社における基盤強化に伴うコスト増等により減益となりました。

財政状態

単位：億円

科 目	平成26年3月期 (第88期)	平成27年3月期 (第89期)	平成28年3月期 (第90期)	平成29年3月期 (第91期)	平成30年3月期 (第92期)
流 動 資 産	825	886	868	880	932
固 定 資 産	668	820	865	891	975
流 動 負 債	497	564	508	480	527
固 定 負 債	284	341	409	418	396
純 資 産	711	800	816	872	984
(うち株主資本)	(627)	(643)	(685)	(736)	(796)
総 資 産	1,493	1,706	1,734	1,771	1,907

詳細な財務データは当社IRサイトをご覧ください。
<http://www.takasago.com/ja/ir>

高砂香料 IR

検索

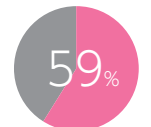
事業別概況

フレーバー事業



売上高 **833** 億円

前期比1.5%増 ↑

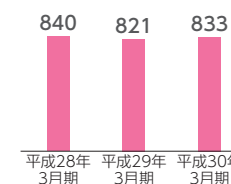


事業内容

飲料やデザート、菓子、乳製品、調理食品などに、優れた香りと風味を付与するフレーバーを提供し、さらに果汁やコーヒー、お茶といった食品原料も提供しています。

売上高

単位：億円



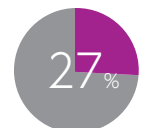
● ドイツ子会社が、バニラを使用した菓子や乳製品用フレーバーの伸長により好調に推移したこと等から、増収となりました。

フレグランス事業



売上高 **381** 億円

前期比6.3%増 ↑

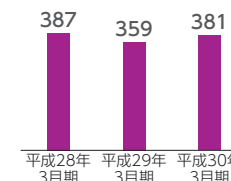


事業内容

香水や化粧品やシャンプー、洗剤、芳香剤、入浴剤といった商品に使用される香りを、残香性や拡散性、安定性にも優れたかたちでクリエーションし、提供しています。

売上高

単位：億円



● フランス子会社において、ホームケア・パーソナルケアが堅調に推移したこと等から、増収となりました。

アロマイングリディエーツ事業

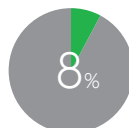


売上高 **114** 億円

前期比8.4%増 ↑

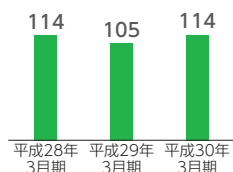
事業内容

光学活性で革新的かつユニークな香りの素材を開発し、高品質のフレーバー、フレグランスのクリエイションに用いています。



売上高

単位：億円



- 主力品メントールが好調に推移し、増収となりました。

ファインケミカル事業

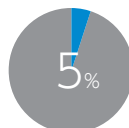


売上高 **72** 億円

前期比6.7%増 ↑

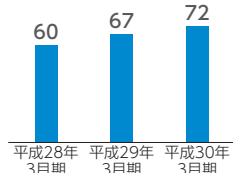
事業内容

独創的な触媒・不斉合成技術を核に、フロー連続技術による医薬品中間体、電子写真感光体などの機能性素材を提供しています。



売上高

単位：億円



- フロー連続技術による医薬品中間体ビジネスが引き続き伸長したこと等により、増収となりました。

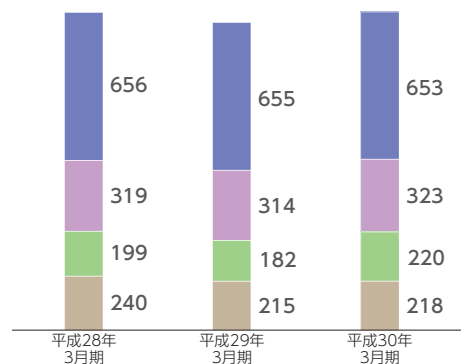
※上記の他に、その他不動産事業の売上高14億円があります。

地域別概況

地域別売上高

単位：億円

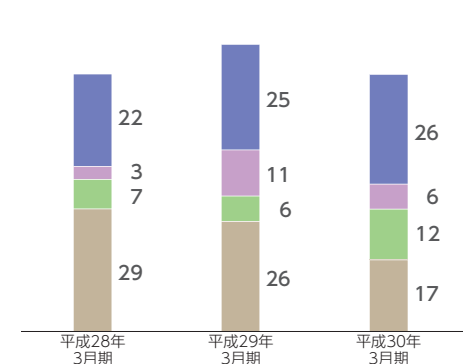
■ 日本 ■ 米州 ■ 欧州 ■ アジア



地域別営業利益

単位：億円

■ 日本 ■ 米州 ■ 欧州 ■ アジア



日本

売上は、アロマイングリディエーツが好調に推移いたしましたが、フレーバーの不調により減収となりました。営業利益は、アロマイングリディエーツおよびファインケミカルが増益に寄与しました。

米州

売上は、米国子会社等におけるフレグランス、ファインケミカルの好調により増収となりました。営業利益は、米国子会社の基盤強化に伴うコスト増等により、減益となりました。

欧州

売上は、ドイツ子会社、フランス子会社の好調により増収となりました。営業利益は、ドイツ子会社が、原料高騰などのコスト増がありながらも、販売面の好調により増益に大いに寄与しました。

アジア

売上は、シンガポール子会社におけるフレグランスの好調等により増収となりました。営業利益は、シンガポール子会社におけるフレーバーの不調や、中国子会社における製品構成の変化および原料価格の上昇により減益となりました。



Takasago International (Singapore) Pte. Ltd. (シンガポール)



Takasago International (Singapore) Pte. Ltd.
(シンガポール)

ASEAN経済の中心として成長し続けるシンガポール。この地にTakasago International (Singapore) Pte. Ltd.は、1975年に高砂香料の現地法人として設立されました。主にフレーバー、フレグランス事業の研究、製造、販売を行っており、アジア地域のハブ拠点として位置付けられています。2013年には両事業の工場を統合、研究部門を含めた増員・設備拡張を行いました。販売面では、シンガポール、タイ、ベトナム、フィリピン等のASEAN諸国に加えて、オーストラリア、ニュージーランドや南アジア、中東地域と幅広い範囲をカバーしており、成長著しい市場で事業を拡大しています。



Takasago International (India) Pvt. Ltd. (インド)



Takasago International (India) Pvt. Ltd.
(インド)

2000年インド・ムンバイ市にTakasago International (Singapore) Pte. Ltd.の子会社として設立されたTakasago International (India) Pvt. Ltd.。2017年にはインド南部のチェンナイ市に本社を移転、新工場が竣工し、フレーバー、フレグランスの製造を開始しました。生産体制が整ったことにより、市場規模の大きいインドで出荷までのリードタイム短縮を実現しました。今後は、多様なローカルマーケットに対応すべく、フレグランス、フレーバー用調合原料の現地調達も進め、価格競争力も上げていきます。また、インド国内のみならず、バングラデシュやスリランカなどの近隣諸国も視野に入れた生産基地として稼働させていきます。

パキスタンに現地法人開設

2017年12月、当社の子会社Takasago International (Singapore) Pte. Ltd.は、新たにパキスタンの都市ラホールにフレーバーおよびフレグランスの販売拠点として、現地法人Takasago International (Pakistan) Pvt. Ltd.を開設しました。

同国においては、市場が急成長し、特にフレーバーの売上高が増加するとともに、顧客ロイヤルティも高まっています。さらに、同国市場に対する理解を深める目的から、今回拠点を設立する運びとなりました。

今後は、迅速かつ効率的に顧客に対応し、サービスを提供できるよう努めていきます。

主力製品 ハラル認証取得

当社では、東南アジアなどの大きな市場の需要を踏まえ、シンガポールを拠点としてハラル(HALAL)製品の供給体制を整えてきました。そして2017年(一部製品は2016年)磐田工場において、当社主力製品Q-メントールがハラル認証を取得しました。今後は高砂グループのグローバルネットワークを活かし、顧客へ販売拡大していきます。

※ Q-メントールのハラル認証取得は、アロマイングリディエントのリードサプライヤーとして、安全で安心な製品を供給するための取り組みの一つです。

国連グローバル・コンパクトに署名

2017年6月、当社は国連グローバル・コンパクトに署名しました。企業理念である「技術立脚の精神に則り社会に貢献する」の実現に向け、企業憲章・行動規範を実践する中で、国連グローバル・コンパクトの掲げる「人権・労働・環境・腐敗防止」に関する10原則を連携させ、社員一人ひとりの行動に浸透させていきます。

また、*SDGsの目標を積極的に事業活動に取り入れ、よりよい世界の実現を目指して、すべてのステークホルダーに対して責任ある経営を推進していきます。

※ SDGsとは、2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて策定された2016年から2030年までの国際目標です。



オフィスの内観



当社「ハラル証明書」



女性社員の活躍

当社では、多様な人材が特性や個性を活かし、一人ひとりがいきいきと働くことができる職場環境づくりに取り組んでいます。その一環として、女性社員の活躍を推進しており、女性管理職は、毎年増加しています。

社内教育制度「高砂カレッジ」の中でも、女性活躍に関連した研修を行っています。

管理職向けダイバーシティ研修

女性活躍推進法の施行を受け、ダイバーシティへの取り組みの重要性を理解し、多様な価値観をもった部下と効果的に関わっていくポイントを学んでもらう。

女性向けキャリア支援研修

ライフイベントによる働き方の変化が多い女性を対象に、価値観や仕事観を振り返り、共有することで、いきいきと働くためのものの見方を学び、今後のキャリアを考えてもらう。

実際に当社で活躍する女性社員を紹介します。

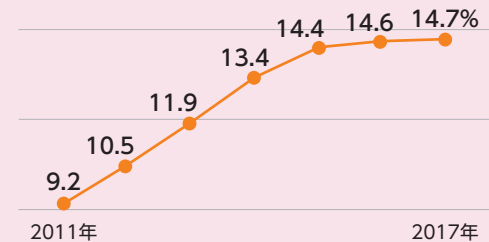


研究開発本部
フレグランス研究所長

平野 奈緒美

- 経歴**
- 1990年 ● ISIPCA 卒業 (フランス高等香料専門学校)
 - 1990年 ● 当社入社 フレグランス研究所配属
 - 1991年 ● ジュニアパヒューマー パーソナルケア担当
 - 2005年 ● シニアパヒューマー 管理職
 - 2013年 ● CFG部 (評価、プロジェクト管理部門) 部長
 - 2017年 ● フレグランス研究所所長 現在に至る

女性管理職比率の推移 (単体)



調香師を目指して単身フランスに渡り、香料の学校ISIPCAを卒業後に帰国し高砂香料に入社。以後27年間フレグランスの香料開発に携わってきました。

6年目に同じ調香師の夫と社内結婚、その後出産すると生活のリズムが一変しましたが、同僚、夫、義父母のサポートで乗り切りました。家にサンプルを持ち帰り、娘にも香りを嗅がせて意見を聞く一方、花の香りを一緒に楽しむなど、親の仕事を理解してもらうよう心掛けました。そんな娘も春から大学生となり、やっと肩の荷が下りた気分です。

5年前に調香師からマネジメントのポジションに任命された際は、クリエイションに未練があり悩みましたが、「置かれた場所で咲け」と覚悟を決めました。リーダーが元気でないとチーム全体に活気がなくなります。オフの日は、ウォーキングで体を動かし、異業種の友人との交流でリフレッシュしています。自分ができることを精一杯やり、そして楽しむ。それが私のワークライフバランスです。

グローバルネットワーク



ヨーロッパ・中東・アフリカ

フランス	Takasago Europe Perfumery Laboratory S.A.R.L.
ドイツ	Takasago Europe G.m.b.H. Takasago International (Deutschland) G.m.b.H.
スペイン	Takasago International Chemicals (Europe), S.A. Takasago International (España) S.L.
イギリス	Takasago (U.K.) Ltd.
イタリア	Takasago International (Italia) S.R.L.
トルコ	Takasago International Turkey Esans Ve Aroma San. TIC. A.S.
モロッコ	Societe Cananga S.A.R.L.
マダガスカル	Takasago Madagascar S.A.
南アフリカ	Takasago International Corporation South Africa (Pty) Ltd.

アメリカ大陸

アメリカ	Takasago International Corporation. (U.S.A.) Centre Ingredient Technology, Inc.
メキシコ	Takasago De Mexico S.A. De C.V.
ブラジル	Takasago Frangrancias E Aromas Ltda.

アジア・パシフィック

中国	上海高砂香料有限公司 上海高砂・鑑臣香料有限公司 廈門華日食品有限公司 高砂香料(広州)有限公司
韓国	Takasago International Corporation (Korea)
シンガポール	Takasago International (Singapore) Pte. Ltd.
インド	Takasago International (India) Pvt. Ltd.
パキスタン	Takasago International (Pakistan) Pvt. Ltd.
フィリピン	Takasago International (Philippines), Inc.
タイ	Takasago Import and Export (Thailand) Ltd.
インドネシア	PT. Takasago International Indonesia PT. Takasago Indonesia

会社概要

会 社 名	高砂香料工業株式会社 (TAKASAGO INTERNATIONAL CORPORATION)
本 社	〒144-8721 東京都大田区蒲田5丁目37番1号 ニッセイアロマスクエア17F
T E L	03-5744-0511
国内事業所	大阪支店、名古屋支店、福岡支店、 平塚研究所、平塚工場、磐田工場、鹿島工場、 三原工場
海外事業所	世界27の国と地域に事業拠点がございます
創 業	1920年(大正9年)2月9日
資 本 金	92億4,853万8,972円
従 業 員 数	1,005名(高砂香料グループ3,354名)

取締役および監査役 (平成30年6月27日現在)

代表取締役社長	榎 村 聡
取締役	野 依 良 治
取締役	笠 松 弘 典
取締役	藤 原 久 也
取締役	山 形 達 哉
取締役	染 川 健 弘
取締役	谷 中 史 浩
取締役	松 田 明
取締役	水 野 直 樹
取締役	磯 野 裕 一
取締役	川 端 茂 樹
常勤監査役	大 西 清 一
常勤監査役	近 藤 康 仁
常勤監査役	中 江 康 男

(注) 1. 取締役野依良治氏、松田浩明氏は社外取締役であります。
2. 監査役大西一清氏、中江康男氏は社外監査役であります。

執行役員 (平成30年6月27日現在)

社長執行役員	榎 村 聡
常務執行役員	笠 松 弘 典
常務執行役員	藤 原 久 也
常務執行役員	山 形 達 哉
常務執行役員	染 川 健 弘
常務執行役員	谷 中 史 浩
常務執行役員	松 田 明
常務執行役員	水 野 直 樹
常務執行役員	磯 野 裕 一
常務執行役員	川 端 茂 樹
執行役員	限 木 孝 之
執行役員	佐 藤 文 明
執行役員	川 野 明 彦

国内事業所一覧

本 社	平塚研究所
大 阪 支 店	平塚工場
名古屋支店	磐田工場
福岡支店	鹿島工場 三原工場

国内子会社

株式会社高砂ケミカル	高栄産業株式会社
高砂スパイス株式会社	高和産業株式会社
高砂フードプロダクツ株式会社	有限会社高砂保険サービス
高砂珈琲株式会社	南海果工株式会社
株式会社高砂インターナショナルコーポレーション	高砂香料西日本工場株式会社
株式会社高砂アロマス	

TAKASAGO COLLECTION®

当社は香り文化の普及を願い、香りの歴史と文化に関する資料や美術品の収集と保存に努めてまいりました。高砂コレクション®は、日本の香道具、香炉、香合などから、古代エジプト、ギリシャ、ローマ時代の香油瓶、中国の香炉、18～20世紀のヨーロッパの香水瓶など約1,000点に及びます。これらの一部を本社ギャラリーで展示しています。

- 場所 高砂香料工業・17階ロビー内
- 開室 10:00～17:00 (入室は16:30まで)
- 休館 土日祝日、年末年始、臨時休館日
- 料金 無料
- 交通 JR蒲田駅・徒歩3分

菊枝鳥螺鈿蒔絵香合

うさまつほうび
植松包美 作

大正～昭和 高4.7cm

全体を金地に仕立て、螺鈿で文様を表わす。平安後期から鎌倉時代にかけて流行した沃懸地螺鈿の近代版ともいべき作品で、鶴岡八幡宮に伝わる「雛菊蒔絵螺鈿硯箱」(国宝)を念頭において作られたものであることが明らかである。

作者の植松包美(1872～1933)は古典作品を研究し、それに新しい解釈を加えた作風で知られる。本作もその一環として作られたものであろう。

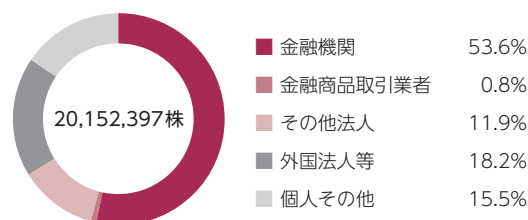


株式の状況

発行可能株式総数	60,000,000 株
発行済株式の総数	20,152,397 株
株主数	5,145 名

株式の分布状況

所有者別構成比



(注)個人その他には、自己株式としての保有分(2.0%)が含まれております。

大株主

株主名	所有株式数(千株)	持株比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,846	14.4%
日本生命保険相互会社	1,468	7.4%
株式会社三菱東京UFJ銀行	947	4.8%
共栄火災海上保険株式会社	750	3.8%
中江産業株式会社	720	3.7%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	708	3.6%
HSBC BANK PLC - MARATHON VERTEX JAPAN FUND LIMITED	696	3.5%
株式会社みずほ銀行	486	2.5%
株式会社紀陽銀行	471	2.4%
GOLDMAN, SACHS&CO.REG	436	2.2%

- (注) 1. 持株比率は発行済株式の総数から自己株式数(411,155株)を控除して計算しております。
2. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数には信託業務に係る株式数が含まれております。
3. 株式会社三菱東京UFJ銀行は、平成30年4月1日をもって名称を株式会社三菱UFJ銀行に変更しております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関	同
(同連絡先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 電話 0120-232-711(通話料無料)

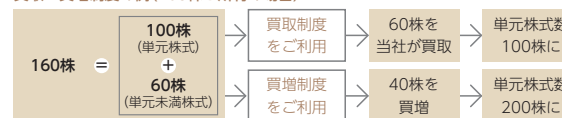
上場証券取引所	東京証券取引所第1部(化学)
証券コード	4914
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告により行う
公告掲載URL	http://www.takasago.com/ja/ir/e_announce.html ※ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式に関する手続きについて

● 単元未満株式(100株未満の株式)買取・買増制度について

当社株式の証券市場での取引は100株単位(1単元)となっておりますため、単元未満株式(100株未満)を市場で売買することはできません。このため、当社では「単元未満株式買取・買増制度」をご用意しております。単元未満株式をご所有の株主さまは、ぜひ買取・買増制度のご利用についてご検討くださいますようお願い申し上げます。

買取・買増制度の例(160株ご所有の場合)



「環境・衛生・安全」への取り組み

当社グループは、持続的な(サステナブル)社会の実現に向けて、環境保全に対しグローバルに取り組んでおります。詳細については、当社ホームページ「サステナビリティ」をご参照ください。

高砂香料工業株式会社
「社会・環境報告書 2017」

URL <http://www.takasago.com/ja/sustainability/index.html>

Takasago's History

第5回

戦後の再出発 ● 1945⇒1960

台北に本社のあった高砂化学工業は在外会社としてGHQの管理下に入った。昭和26年にやっと新生高砂香料工業が誕生するものの、翌年創立以来最大の経営危機を迎える。

昭和20年8月、敗戦により台北に本社のあった高砂化学工業はGHQから在外会社指定され管理を受けることになりました。台北工場は台湾専売局の管理となった後に接収されます。残されたのは空襲を受けた東京工場と、和歌山と札幌にある工場だけでした。

和歌山の日高郡にあった日高工場では疎開させていた製品や精油類を使って製造をつけ、東京工場が復旧するまでのつなぎの役割を果たします。札幌工場でも生き残るために、香料にかぎらず様々なものを製造しました。

東京工場の整備とともに、昭和22年には平塚工場が開設されます。旧海軍相模工廠化学実験部を譲り受けたもので、軍用地の民需転換にいち早く動いたおかげで取得できたのです。もう少し遅くなると、戦後賠償などの関係で取得は困難になっていたかも知れません。実験部には化学工場としての製造設備もあり、この後合成の中心は蒲田から平塚に移されていきます。

在外会社としてGHQの管理下様々な制約をうけていましたが、昭和24年に「在外会社内地資産整理令」により整理を開始し、昭和26年2月に新高砂化学工業を設立します。さらに、その年の8月に社名を高砂香料工業として文字通りの再出発を遂げます。

ところが、新生高砂は業績の急激な悪化により、昭和27年に創業以来最大の経営危機に陥ってしまいます。ひとつの要因として、朝鮮戦争の休戦により、いわゆる「特需」が終わって景気が後退したことがあります。それに高砂固有の問題が重なりました。

まず、在外会社として税の納入を猶予されていたものが、新会社設立後に講和条約が発効したことにより、5年分の課税がなされます。賦課された税額3500万円は、当時の資本金を大きく超える金額でした。

さらに、原料として重要なシトロネラ油の価格が輸入が自由化されるとともに高騰し、製造を確保するため大量に注文したところ、入荷するころ突如価格が暴落するという不運に見舞われます。昭和26年でキロ単価平均1527円だったものが、翌年には453円にまで暴落したのです。買った原料の価格が、それを使って作る製品の価格より高くなるわけで、大きな損失となりました。

ただし長い目で見ますと、この時以来シトロネラ油が低価格で推移したおかげで、この後高砂がシトロネラ油を原料としてメントールを製造することにつながったとも言えるのです。

とは言え、この時の経営危機は深刻であり、すでに昭和26年5月に日本生命から借り入れを受けていたものの、経営はますます悪化します。そして翌昭和27年の4月からは給料の遅配さえ起こります。財務担当であった長瀬専務と中西常務は資金調達に奔走しますが、結局日本生命からのさらなる融資を受けるほかに手はないという結論に達しました。

融資を受けるにあたって、当然のことながら厳しい合理化を突きつけられます。責任を負うかたちで長瀬専務が退任し、本業以外の事業の縮小とともに、従業員の人員整理もせざるを得ない状況でした。後に社長となる中西健次は、この時の辛い経験から「長期安定」を経営の根幹に置くようになったと言われています。

経営危機を乗り越えた後は、昭和29年にメントールの製造を開始したほか、翌年には戦後の高砂の代表的な製品であるムスクTの製造が始まります。景気が回復したこともあり、蒲田から平塚への製造移管も進みます。昭和35年までには、戦前からの高砂の主力製品であるヒドロキシシトロネラルやヨノン、そしてヘリオトロピンが平塚で製造され始めます。増産体制が整うとともに、高砂も高度成長の時代へと突入していったのです。

【以下次号】



平塚工場(1955年当時)